



Title	身装画像にみる近代日本の文化変容－データベース化のための基礎研究
Author(s)	高橋, 晴子
Citation	大阪大学, 2003, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/44116">https://hdl.handle.net/11094/44116</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	高橋晴子
博士の専攻分野の名称	博士(文学)
学位記番号	第 17464 号
学位授与年月日	平成15年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 文学研究科文化表現論専攻
学位論文名	身装画像にみる近代日本の文化変容—データベース化のための基礎研究
論文審査委員	(主査) 教授 上倉 庸敬 (副査) 教授 藤田 治彦 教授 園府寺 司

### 論文内容の要旨

本論文の目的は、近代日本の「身装」画像を蒐集・整理して、「身装」の態様を明らかにし、「身装」という視点から、近代化にともなう日本の文化変容を具体的に呈示することにある。その目的はつぎの作業をへて達成される。すなわち、画像にあらわれた「身装」の諸主題について、個々の「モノ」と「コトガラ」の「事実性」を解明しつつ、文化変容のレベルに視野を高めて、諸主題とその周辺に関する論議を深め、「身装」画像のデータベース化を実現するために、画像評価の手がかりと諸基準を確定するという作業である。

論者は、「衣服」また「服装」という言葉を用いず、「身装」をつかう。「身装」は、身体および身体を装うための「モノ」とそれに関連する「コトガラ」、そしてそれを支える情景のすべてを含み、その全体をひとつの風俗現象として把える概念である。身装画像データの「事実性」を解明するとは、身装を示す画像がどの程度まで事実として信頼できるかを、明確に把握することに他ならない。

対象とする期間は、現代日本人の衣習慣の基礎的パターンが、洋装を中心としてほぼ定着するまでの明治維新以降、約100年間。この100年は、伝統的な和装と、外来文化である洋装をめぐる試行錯誤と緊張が、縋い交ぜになった試練の時であるという。

論文は、1ページが1行40字で40行、本文289ページ(400字詰原稿用紙でほぼ1200枚)。引用文献および図版リスト13ページ、身装画像データベース検索過程を例示した写真6葉が付され、全4部から成る。

第1部では、画像内容の事実性を評価する基本的な研究方法が詳述される。テーマは身装であり、身装は風俗現象であるから、風俗学の方法が選択される。しかし風俗学に確固たる方法はあるだろうか。論者は、現在にいたる風俗研究の推移を精密にたどって、その主な方法を検討し比較し批判して、本研究で執るべき方法を確定する。

第2部では、基本データである画像資料の特性が詳述される。画像資料のタイプは主として絵および写真であるが、絵には絵の、写真には写真の、それぞれに通有する資料特性がある。とくに問題となるのは、両者それぞれがもつ虚構性である。こうした特性を前にして、事実性の解明はどのように行われなければならないか。その方法を綿密に解析する。

第3部では、裁縫・美容という、身装と特に関わりの深い二つの領域に関して、専門図書、および新聞・雑誌という二つの代表的なメディアタイプから抽出される諸主題ひとつひとつの重要性が、検証され詳述される。専門書は対象となる全期間のものが網羅される。新聞と雑誌は、まず二つのメディアそれぞれにおける身装記事の扱い方が分析さ

れ、ついでその分析にもとづいて、メディアに即した記事の読みとり方が提出される。その手続きを踏んで重要主題がピックアップされ、各主題の既成概念が修正されて、データベースの検索語に適するかどうかを考究され、ふさわしいものが選別される。

第4部では、当該期間の身装の態様を如実にあらわす〈美しいひと〉が、検索概念として樹てられるかどうか、その可能性が詳細に検討される。当該期間のすべての年から、当時ひろく受け容れられた新聞小説を選びだし、そこで語られ、また挿絵に描かれている〈美しいひと〉を抽出、あわせて当該期間の造形作品からも〈美しいひと〉を抽出、その有り様と、それに関連する身装の事実性を探って、〈美しいひと〉の諸類型を設定した。つまりは感性語を検索キーに加えられるかどうかの試みである。

以上の結果、大量の身装画像の事実性が検証され、信憑性の高い関連画像が選定されて、重要主題が確定され、データベースの基本的要件がととのえられた。当該期間ほぼ100年の、重要なキーとなる身装それぞれの態様を、視覚でとらえられる範囲内で示しうる検索語を選別し、〈身装画像概念コード表-2003〉を編成した。

### 論文審査の結果の要旨

質・量ともに紛れもない労作である。論者は社会人として博士後期課程に入学したが、それ以前すでに30年にわたって、維新以後から現在までの服飾に関連した日本語図書および雑誌記事を蒐集、あわせて浩瀚な目録を刊行し、国立民族学博物館をとおしてデータベースを公開してきた。本論文のねらいは、その蓄積された材料をもとに、30万枚を超える身装画像に関して、感性に依存する概念さえも検索に利用できるような、画期的なデータベースを作成しようというところにある。

身装画像がどの程度まで当時の事実を反映しているかという事実性の解明は、データベース作成のためにまずクリアしなければならない問題である。単なる衣服に留まらぬ「身装」は、論者および論者の属する研究グループに独自の概念であって、その有効性はひろく認知されているが、身装画像における事実性の解明を、方法論の検討という、もっとも基礎となるところから始めている研究は、本論文をもって嚆矢とする。既往の風俗研究を丹念に渉獵、逐一、批判して樹立された本論文の方法は、十分、説得力に富んでいる。のみならず本論文は、軽快な論理と切れのいい手際によって、膨大な資料から画像を選択、つぎつぎと印象深いテーマを抽出して、その方法がきわめて有効であることを、実例をもって証明した。

抽出されたテーマは、論旨の展開にともなって、輪郭のはっきりした体系を形づくり、「身装」データベースの検索語となる。検索語は、じつは語ではなく、概念であり、ために本論文は「検索キー」と称されているが、こうして策定された検索キーの一覧〈身装画像概念コード表-2003〉は、身装という視点から眺められた近代日本における文化の一面を、あざやかに映し出している。

本論文は、身装というユニークな概念にもとづいて、ここ100年の日本文化の様相をまるごと把えようとした試みであり、その試みは、豊かな可能性をかいま見せて、十全に成就されたといえよう。タイトルの「変容」は必ずしも明確に跡づけられてはいないが、論文内容の壮大に比べれば、完璧にすぎない。本論文は博士（文学）の学位を授与するに十分に相応しいと認められる。